



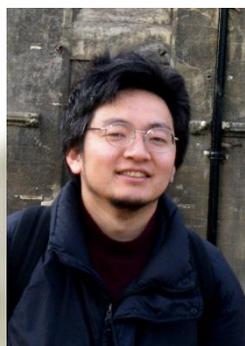
第57回

東京大学医学教育セミナー

「ヘルスケアの歴史変動と 医師の未来」

日本のヘルスケアのシステムを考える上で、次の3つの歴史的潮流を同時に視野に入れておく必要がある。すなわち、1)ヘルスケアの生活モデル化、2)人口高齢化3)医学・医療技術の高度化である。1)はヘルスケアの究極的目標を従来の患者の治癒から患者のQOLに転換させてゆく力であり、ヘルスケアシステムの地域ケア化を導くものである。2)、3)は、多様な派生的影響を措けば、医療の財政への負担の増大をもたらす効果をもつ。つまり、日本のヘルスケアは長期的に、資源節約的な方法で地域ケアを実現してゆかなければならない、ということになる。これに対応して、日本のプライマリケア領域における医師の活動も、上で述べた文脈に対していかなる貢献をするかによって評価されるようになる。

本講演ではこのような観点から、ヘルスケアに取り巻く歴史的潮流を整理しつつ、医師が帯びる社会的使命についての長期的な展望について論じてみたい。



講演者 猪飼 周平

一橋大学大学院社会学研究科 教授

2013年9月26日(木) 18:00～19:30

東京大学医学部図書館3階 333会議室

主催・問い合わせ先

東京大学大学院医学系研究科
医学教育国際研究センター

TEL: 03-5841-3583 E-mail: ircme-lec@m.u-tokyo.ac.jp

URL: <http://www.ircme.u-tokyo.ac.jp>

※準備の都合上、出席をご希望の方はなるべく
事前にご連絡をお願いいたします。

